

# 主要項目業績コメント

〇〇〇〇株式会社 第3期

## 当期業績の概況(損益計算書)

当期の売上高は357,491千円で、前年に比べ16,984千円増加し、対前年比+5.0%となっています。売上総利益は109,678千円で、売上総利益率は30.7%となっており、前年に比べ5.3%高く、売上総利益の額は23,344千円増加しています。販売費及び一般管理費においては、人件費が5,303千円増加し、対前年比+15.8%となっており、その他前年より増加した主な科目は、交際費が89千円、消耗品費が38千円、荷造運賃が10千円増加しています。前年より減少した主な科目は、広告宣伝費が△476千円、旅費交通費が△151千円、支払手数料が△27千円減少しており、販売費及び一般管理費合計では4,795千円増加しています。販売費及び一般管理費差引後の営業利益は44,554千円で、前年より18,549千円増加しています。営業外収益11千円、営業外費用244千円を計算に入れると、経常利益は44,321千円となり、前年より18,650千円増加しています。収益性指標のうち利益率で重要な売上高経常利益率は12.4%で、前年の7.5%を上回っており、利益率が良くなっています。特別損益及び法人税等を計算に入れると、当期純利益は40,019千円で、最終的に前年に比べ16,650千円利益が増加しています。

## 利益とキャッシュの関係(CF計算書)

損益計算書の税引前当期純利益は44,321千円ですが、キャッシュの増加は50,088千円となっています。主な要因として営業キャッシュフローにおけるキャッシュの増加は、仕入債務の増減額により+31,972千円、減価償却費により+3,927千円、未払消費税等の増減により+1,059千円です。キャッシュの減少は、売上債権の増減額により△13,878千円、法人税等の支払額により△1,903千円、棚卸資産の増減額により△499千円となっています。次に、投資キャッシュフローにおけるキャッシュの増減は、固定資産等の取得が△12,000千円、定期預金等の預入が△6千円となっています。フリーキャッシュフロー(営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー)は53,207千円となり、損益計算書上の税引前当期純利益と比較すると+8,885千円多いこととなります。財務キャッシュフローにおいては、資金の調達は短期借入れによる収入が+1,500千円、返済及び支出は長期借入金の返済による支出が△4,118千円、短期借入金の返済による支出が△500千円となっています。営業キャッシュフローと投資キャッシュフローと財務キャッシュフローの合計でキャッシュが50,088千円増加しています。損益計算書の税引前当期純利益と比較すると5,767千円多いこととなります。